

3 巡目

四国あるき 遍路の旅

第7回



	11/15	11/16	11/17
地名	宿毛	宇和島	宇和島
天気			
最高気温	18.3	20.6	21.9
最低気温	6.3	5.6	8.0

- 39番 延光寺
- 40番 観自在寺
- 41番 龍光寺
- 42番 仏木寺
- 43番 明石寺



令和元年11月15日～17日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺

Title : 出会いの39番延光寺

Date : 2019/11/15



飛行機が遅延したために予定の特急には乗れず、次の特急は約2時間後という交通事情のため、39番延光寺に着いたのは午後2時半ぐらいでした。いくらここからタクシーに乗っても、今日中の松尾峠越えは無理です。一人での歩き遍路なら、今日は峠の手前で一泊となるのですが、12名で宿は予約済みなので、せめて宿毛まで歩いて、路線バスで今日の宿まで行くことに変更しました。

四国遍路は出会いを求める旅

旅の僧を無礙にした衛門三郎が、その僧・弘法大師に会ってお詫びをしたいということから、四国を歩いて探し回ったことから四国遍路は始まったとも伝えられています。

延光寺にたどり着くと、後方で歓声が上がりました。なんと、40年ぶりに再会した尚美さんとその同級生との歓喜の声でした。大学の寮で出会った二人は、最近になってラインを使って連絡を取り合っていたようで、歩き遍路の旅程を見た同級生が、近くに来るといのでわざわざ訪ねてくれたのです。

衛門三郎も弘法大師とライン仲間になれていたなら、何回も四国を歩いたり、大変な逆打ちまですることなくお大師さんに会っていたのに・・・。

歩いて宿毛まで行くというと、途中の「鶴亀」というレストランも尚美さんの同級生の店だということで、立寄ってコーヒータイムにすることにしました。同級生3人集まって、キャピキャピでした。



40年ぶりの再会を果たした、かつての乙女たち。お接待の栗まんじゅうも、ごちそうさまでした。



延光寺を出たとたんに遍路道は山の中に入ります。

Title : 一本松温泉「あけぼの荘」 Date : 2019/11/15



いつも通り、この歩行記録は、田中さんの携帯で計測したものを「ルートラボ」というソフトで地図上に表示したものです。



予定が変更になったので、バス停の場所もわかりにくかったですが、なんとかたどり着きました。



予定では、松尾峠を踏破して麓に降りたところにある温泉に宿泊という願ってもない旅程でした。なにとはともあれ温泉ということで、夕食は言われるがままお刺身定食を注文しておきました。席に着くと、まさにお刺身とごはん・味噌汁・つけものが並んでいます。あとから揚げ物、煮物、和え物などが出て来る・・・なんてありませんでした。あわてて単品のおかずを頼んで、みんなのお腹は落ち着いたようでした。チェックアウト時、明細を見るとごはんのおかわり100円、お味噌汁のおかわり150円・・・、かつての国民宿舎を思い出させていただきました。



Title : 40番観自在寺

Date : 2019/11/16



あけぼの荘前のバス停を出発。山中のため、結構冷え込んでいました。

門前町から参道を行くと、石段の上に仁王門が見えてきます。

正面が本堂で、門柱を抜けた右側に「さかえる」がいます。

朝のすがすがしい空気の中、般若心経を読経する。

本堂前で集合写真を撮パチリ。

2日目のメインは、柏坂の峠越えです。その前にある40番観自在寺は、門前に「札所前」というバス停があるので、毎回途中下車してお参りをする感じになってしまいます。

ひとつ前の札所、延光寺は亀にゆかりのお寺でしたが、観自在寺にはカエルの石像が鎮座していて、栄かえる（さかえる）という名前だったと思います。このカエルをなでると、親子三代さかえる、お金がかえる、福がかえるなどのご利益があるとのこと。途中下車参拝であわただしく、なでている余裕もなかったのでしょうか。でも、全員無事かえるで、ご利益はあったようです。



「ぶーふうーキッチン」

古い門前町があるとはいえ、街中に昼食を調達するコンビニもなく、最寄りのコンビニまで歩くとバスを一番遅らせなければならず、いろいろ調べた挙句、昼食を届けてくれるお弁当屋さんを見つけました。その名も、「ぶーふうーキッチン」、カメ・カエルに続いて、今度はブタに助けてもらうことになりました。

500円ぐらい、と予算を言ったのが間違いだったのか、おにぎりが4個も詰められたお弁当、お店の人の良心も詰まったお弁当でした。



Title : 柏坂越えのへんろ道

Date : 2019/11/16



トレッキング・ザ・空海

翌11月17日に標記のイベントがあるらしく、その準備にポン菓子を作っているグループがいました。お接待にポン菓子をいただき、ポン菓子機の爆音とともにいざ柏坂峠へ出発となりました。

今回初めての本格的へんろ道です。初日に松尾峠越えで足慣らしと思ったのに、計画変更となり、いきなりのH480mはこたえました。

下りながら振り返ると、登りはじめに正面に見えた風力発電の風車が後ろに見えたので、あの山を越えたのかと自分をほめることにしました。

柏坂へんろ道のこと

バスを降りた柏の集落に、変わった道しるべの石が残っています。その石には、「左 舟のりば」と刻まれています。現存する未舗装のへんろ道としては、焼山寺のへんろ道に次ぐ長さがあるといわれる「柏坂」。

昔は、宇和島から入り江を伝って柏、さらに宿毛までいく舟があったそうで、柏坂を避けることができ、お遍路さんの間では「お助けの舟」と言われていました。

私たちは、「お助けのバス」に乗って、わざわざ柏で降りて、柏坂を歩いて越えようというのですから、文明の利器を使っているのか、あるいは時代に逆行しているのか、おもしろいものです。

「お助けの舟」にも乗ってみたいのですが、車社会ですから、おそらく現存はしていないと思います。



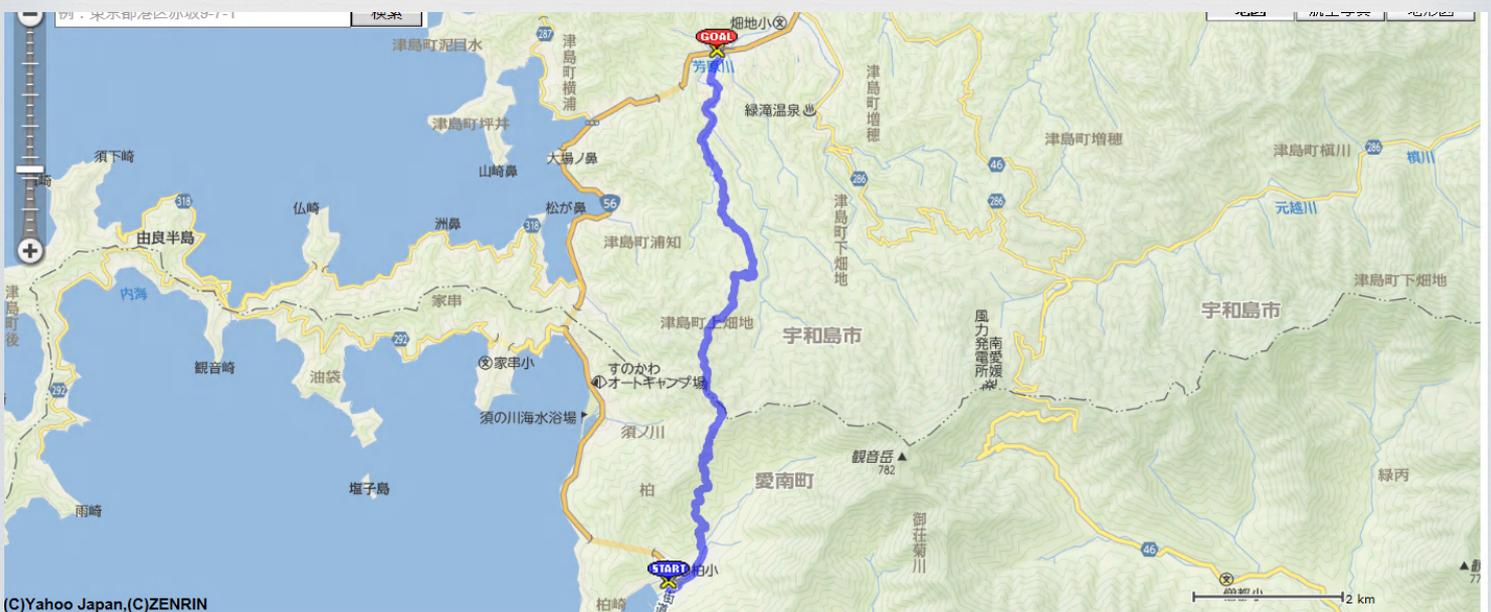
Title : 妙心寺派禅蔵寺でお昼

Date : 2019/11/16



つわな奥

左の写真が「つわな奥」からみた由良半島の景色です。さらに天気が良ければ、九州まで望むことができるそうです。



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN
500 m

上の地図を見ると、つわな奥から眺めた由良半島の形がよくわかります。

昔は海岸線沿いの道なんかあるわけがないというのも、よくわかります。



点数:1634 距離:14.4km 全体平均斜度:0.1% 最大標高差:456m



昼食は、禅蔵寺で決まり

柏坂を超えて麓にたどり着いても飲食店は皆無ですが、おあつらえ向きに妙心寺派の無住寺院、禅蔵寺があり、前回同様、薬師堂の縁側を拝借してお弁当を広げることになりました。

無住と言う事で住職に挨拶をするなどという煩わしいこともなく、無住もありがたいものです。



Title : 妙心寺派大乘寺専門道場

Date : 2019/11/16



2巡目でも、宇和島に行ったら、大乘寺専門道場にお参りに行きたいと思っていましたが、今回ようやくお参りに行くことができました。

大乘寺は、四国唯一の臨済宗の修行道場で、露香室老大師は住職の平林寺での後輩にあたる方というご縁もあります。また、圓福寺火災の折にはお見舞いをいただきましたが、大乘寺が平成30年7月の西日本豪雨で甚大な被害を受け、心配ばかりしていて、一度もお見舞いにお伺いできずにおりましたので、今回のあるき遍路でようやく現地に赴くことができませんでした。

老大師自ら伽藍をご案内して下さり、豪雨被害の状況もくわしく教えていただきました。その被害から境内はきれいに旧に復され、厳しい修行道場の空気に満たされておりました。

あるき遍路途中のラフな格好でお伺いしたにもかかわらず、貴重なお話とおいしい抹茶まで頂戴して恐縮でした。



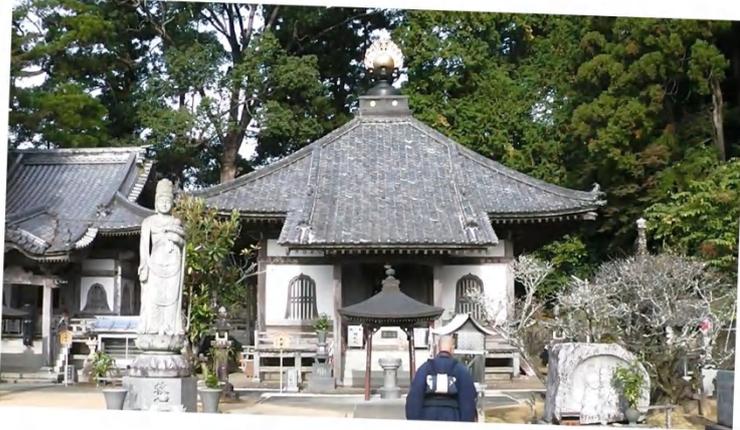
夕食は打って変わって、宇和島の老舗料理店「ほづみ亭」で、宇和島名物の鯛めしです。めずらしい「亀の手」なんていうものもありました。

さっきまでおかゆや精進料理しか食べられない修行道場にお邪魔していたのにとすると、天国と地獄のような違いですが、楽あれば苦あり、最終日は今回のクライマックスである「歯長峠」が待ち受けていることをお忘れなく・・・。



Title : 42番仏木寺

Date : 2019/11/17



お抹茶のお接待

42番仏木寺の境内では、お抹茶のお接待が行われていました。道中では、ペットボトルのお茶やお水しか飲まないの
で、きちんと坐ってお菓子とお抹茶は格別においしかったです。禅語に「喫茶去」とある通り、お茶をいただいたら、
いざ齒長峠に向かって歩き出すことにしましょうか。



42番仏木寺から齒長峠を超えて、43番明石寺へ





「通行止め」の看板。ただし、看板に偽りあり。「齒長峠」はまだまだ先です。



「齒長峠」の看板を手にする住職。この一山を超えてから「齒長峠」への登りが始まります。まだまだ序の口。

難所、齒長峠

四国出発前のネット情報では、齒長峠は西日本豪雨の土砂崩れの為に通行できず、並行する県道を歩くしかないとのことでした。念のため、仏木寺の納経所でお伺いすると、峠の手前で1か所崩れているところはあるようですが、通れないことはありません、との吉報を手に入れました。一部の人には残念なお知らせだったかもしれませんが、いざ出発となりました。

通行止めの看板をいぶかしく思いながら進むと、沢筋に立木もろとも崩れた場所がありましたが、すでに簡易的な迂回路が作られており、無事に通過。とはいえ、まだ齒長峠本体の登りではありません。いったん舗装道路に出て、再びへんろ道に入ると、鉄の鎖が渡された直登の急坂。まさに難所。しかも、この日は最高気温20℃越えの暑さです。大汗をかいての難所越えとなりました。



Title : 43番明石寺

Date : 2019/11/17



明石寺での集合写真は、雨海さんの白装束と住職の行脚姿がなければ、とてもお遍路さんには見えませんよねえ。
右は初参加の塚本さん。無事歩き終えて、安堵の鐘を叩きます。



明石寺から卯之町駅に向かう、最後の下りです。



車道に導かれて・・・。

齒長峠の山を下り、齒長地蔵の休憩所で昼食。ここからは舗装道路を高速道路沿いに歩くことになります。

宇和の町に近づくとへんろ道は高速道路に分断されてわかりにくくなってしまいます。道しるべに従って行くと、なんとなく遠回りさせられたようで、これまでの明石寺へのへんろ道ではなく、駐車場への急坂へと導かれてしまいました。本来なら、山門脇に下りて来るのですが、これも高速道路に代表される車社会という時代の流れかもしれません。

山門前で、タクシー組と合流して、今回最後のお参りをして、結願1名、初参加2名のあるき遍路を無事終えることができました。



卯之町駅のプラットフォームで、反省しきりの塚本さん。

破草鞋

7回目にして、ついに鼻緒が切れた草鞋。

住職手作りのわらじです。4回目でこんな感じになります。さて、何回目まで使えるでしょうか？



住職のわらじは、5回目でこんな感じになります。4回目を終えたときのわらじと比べてください。



6回目でこんな感じになります。黒くなったのは、濡れた道を歩いたからです。まだ、持ちそうな感じがします。



7回目、齒長峠を下りたところで、右の鼻緒が切れてしまいました。はながではなおがきれた。



香川県(讃岐)の霊場

愛媛県(伊予)の霊場

徳島県(阿波)の霊場

高知県(土佐)の霊場

次回の予定 2020/02/28~03/01

あとがき

第7回のあるき遍路には、竹場さんと塚本さんのお二人が加わりました。

竹場さんの奥さんは今回歩いたあたりの島のご出身だそうです。竹場さんは八幡浜のご出身と、望郷の思いもあったのかと拝察します。

延光寺では、尚美さんの大学時代の同級生との再会があり、さらに同級生が経営しているレストランに立ち寄り、大乘寺の老師は住職と同じ平林寺で修行したお仲間など、ゆかりの地や人に恵まれた遍路となりました。

今回は44番と、八

十八カ所の折り返しとなります。あと半分となり、今後はどんな出会いがあるのか楽しみです。

ところで、私の手作り草鞋も7回目にしてついに鼻緒が切れてしまいました。次の1足で結願まで歩けるかどうか、こちらも楽しみです。

鼻緒が切れた草鞋には、43番までのへんろ道の土や泥や小石が挟まっており、とても無礙に捨てられるものではありません。どうしたものかと、思索しております。

今回は、久万高原の山から松山平野の里に下りていきます。



圓福寺 四国あるき遍路の旅 3巡目第7回写真集

写真：田中 脩一さん
西川 浩平さん (ビデオから)
宮田 宗格
文章：宮田 宗格
編集：宮田 宗格